

ダイワコーポレーション（東京都品川区）は4月、31カ所目となる千葉八千代営業所（千葉県八千代市）を開業し、本格稼働させている。GLP八千代Vを1棟借りたもので、貸し床面積は12万7千平方メートル、八千代エリアで最大級の物流施設。今後のビジネス展開や同社が力を入れる人材の確保・育成について、曽根和光社長（57）に聞いた。

——千葉八千代営業所の営業の進捗は。

6月末時点で賃貸面積の4分の1について、テナントが既に決まっている。チャレンジングなプロジェクトだが、直感で「必然」と

## ダイワコーポレーション社長

曽根 和光氏



## 営業倉庫運営へ立ち返る

感じていた。と言うのも、20年ほど前、この土地にあった橋梁メーカーの工場跡地を借り、倉庫として欧州家具販売大手や日用品卸にサブリースしていた。2018年に日本GLP

は、世界的に店舗展開する家具販売会社から多くのことを学べた。こうした経緯から、巨大な物流施設に「チャレンジすべき」と直感した。まさに縁のある土地だ。

——千葉八千代営業所で今後のビジネス展開は。営業倉庫として顧客と寄

（帖佐義之社長、東京都中央区）からこの土地を含む周辺一帯の再開発の話があり、それに応じるとともに20年11月には物流施設1棟分の賃貸借契約を結んだ。サブリースしていた際に

当社はサブリースの売上比率が高くなっているが、不動産賃貸業ではなく、あくまでも営業倉庫の運営がなりわいであり、今後もそれが変わらぬ太い筋となる。顧客の要望によって作業を伴わないサブリースもしてきたが、それは顧客満足度（CS）の視点が

## 物流のプロ集団を育成

ら選択したこと。

自社最大の物流施設を寄託倉庫として使うことで、230人の社員には「バック・トゥー・ザ・ベースック」、すなわち本業に立ち返ることへの本意度を理解してもらいたい。

てくる。

——人材を育てると様々なビジネス展開が可能になる。

寄託倉庫ビジネスを成功させるには、物流のプロとして戦える人材がいることが条件となる。千葉八千代でのプロジェクトを通じて、社員にはサブリースではなく物流のプロとしての力を身に付けさせ、他の新たなエリアでも拠点を立ち上げられる力を持たせた。また、寄託倉庫のノウハウがあればサブリースの営業も、一味も二味も違っ

拠点開発と同時に人材の確保・育成にも引き続き注力しており、会社としての総合力の成長は止まっていない。毎年、あの手この手

グローズ

アツプ

で新卒を定期採用しており、25年4月は9人が入社した。学生向けのオープンカンパニーは3回目を迎え、中学生の職場体験の受け入れなども行っている。社内教育で特に重視しているのは「人間力」を高める研修だ。外部機関とも連携しケーススタディーを中心に階層別研修に取り組んでいる。

現場であれば顧客、協力会社、社員それぞれに對し思いやりの気持ちを持ち、いかに先読みできる力を持つかが重要。そういう力を持つ物流のプロ集団を作っていく。

（吉田英行）